平成 24 年 度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 12月定例会付託案件	1
1. 所管事務調査	20

平成 24 年 12 月 12 日 (水曜日)

建設環境委員会会議録

平成24年12月12日 水曜日

午前10時01分開議

午後 0時13分開議（実時間119分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算・第8号（関係分）
1. 議案第118号・平成24年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計補正予算・第1号
1. 議案第132号・契約の変更について
1. 議案第127号・八代市手数料条例の一部改正について
1. 議案第129号・八代市風致地区内における建築等の規制に関する条例の制定について
1. 陳情第6号・八代市発注の競争入札参加資格者選任について
1. 所管事務調査
 - ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
 - ・生活環境に関する諸問題の調査（ごみ非常事態宣言後の状況について）
（八代市環境センター建設事業の進捗状況について）

○本日の会議に出席した者

副委員長	堀口	晃君
委員	大倉	裕一君
委員	田中	安君
委員	中村	和美君
委員	橋本	幸一君
委員	増田	一喜君
委員	松浦	輝幸君

※欠席委員 田方芳信君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

環境部長	福田	晃君
環境部次長	宮川	正則君
ごみ対策課長	山口	剛君
環境センター建設課長	小橋	孝男君
建設部長	船藏	満彦君
建設部総括審議員兼次長	原	浩君
下水道総務課長	松本	貞喜君
下水道総務課長補佐兼水酸化促進係長	岩坂	義明君
建設部理事兼街路公園課長	下川	哲夫君
建設部理事兼建築指導課長	羽多野	俊光君
都市政策課長	松本	浩二君
総務部		
契約検査課長	桑田	謙治君

○記録担当書記

寺原哲也君

（午前10時01分 開会）

○副委員長（堀口 晃君） それでは、定刻となり定足数に達しておりますので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

本日は委員長が欠席しておりますので、私がかわって委員長の職務を行います。どうぞよろしく願いいたします。

◎議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算・第8号（関係分）

○副委員長（堀口 晃君） 最初に、予算議案の審議に入ります。

それでは、議案第115号・平成24年度八

代市一般会計補正予算・第8号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求めます。

まず、第4款・衛生費について、環境部から説明をお願いします。

○環境部長（福田 晃君） 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田 晃君） はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

ただいま委員長が申されました議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算・第8号で、環境部に關係します12月補正について、宮川次長が説明いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。宮川環境部次長。

○環境部次長（宮川正則君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり） それでは、座りまして説明をさせていただきます。

それでは、議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算・第8号中、当委員会に付託されております環境部関連につきまして御説明をさせていただきます。

まず、予算書の御説明に入ります前に、人件費に關します今回の補正の概要を御説明いたしますと、本年度は月例給、期末勤勉手当等の給与改定がございませんでしたので、補正を必要といたします主な要因としましては、人事異動、退職者及び休職者等の影響によるものでございます。

それでは、予算書の14ページをお開きください。

款4・衛生費、項2・生活環境費でございます。

まず、目1・生活環境総務費におきまして、補正前の額3億5215万2000円に対し、

節2・給料から節4・共済費を合わせまして、1143万1000円の増額となっております。これは、当初予算で予定しておりました職員数を1名増員するなどの人事異動や育児休暇等に伴うものでございます。

次に、目2・環境保全対策費におきまして、補正前の額2736万9000円に対し、節18・備品購入費におきまして、198万円の増額となっております。これは、本年3月の九州新幹線のダイヤ改正以降、新八代駅を通過する列車のスピードアップが図られたことに伴い、沿線住民の騒音や振動に対する不安や不満の聲が高まっていること、また、市は、本年8月、鉄道・運輸機構に対し、本年度末までを目途に環境基準を達成するよう申し入れを行っていることなどを踏まえまして、市として新幹線騒音・振動に対する調査体制をできるだけ早く整備することが必要との考えから、説明欄に記載しております測定機器及び測定データ管理ソフトの購入経費につきまして、補正をお願いするものでございます。

次に、目5・塵芥処理費におきまして、補正前の額19億5681万7000円に対し、節2・給料から節4・共済費の増減を合わせまして、5万1000円の増額となっております。これは人事異動に伴うものでございます。

次に、目6・し尿処理費におきまして、補正前の額2億9695万8000円に対し、節2・給料から節4・共済費の増減を合わせまして、101万1000円の減額となっております。これは人事異動に伴うものでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。御審議方よろしく願いいたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ございませんか。

はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 済みません、先に。

(委員中村和美君「どうぞ」と呼ぶ)

2目ですね、環境保全対策費で、環境保全対策事業で、備品購入で測定器を購入するということでした。太田郷の市政懇談会市長と語る八代のまちづくりですかね、そんな中でもかなり住民の皆さんから厳しい口調で、測定をする測定器を持っていないと、八代市が持っていない、何たることぞというようなですね、そういった話があったわけですけど、今回購入されるということで、どのような計画を持って、どの時点あたりを測定しようと思っておられるのか、まずはそこをお聞かせいただきたいというふうに思います。

○環境部次長(宮川正則君) はい、委員長。

○副委員長(堀口 晃君) はい、宮川環境部次長。

○環境部次長(宮川正則君) まず今回、補正をですね、議決いただいて、12月早々にですね、購入手続に入りまして、最終的に購入ができるのが大体1月末ぐらいかなと思っております。

その後、地元ですね、皆さん方とずっと協力—お互いですね、情報交換しながら、今後その測定をどういった場所で行うかということですね、まずは相談させていただいて、あわせて、今回購入する予定ですね、騒音計、それをもってですね、騒音ですね、大体測定して、目安をまず確認したいと思っております。どういった場所が適切かということですね。それは市もやりますし、あわせて地元ですね、御意見を伺いながらですね、ポイントを決めたいと思っております。

その後は、25年度の予算ですね、また改めて当初予算で、測定の委託等ですね、予定をしたいと思っておりますので、そちらのほうにぜひつなげていきたいと考えております。

○副委員長(堀口 晃君) 大倉委員。

○委員(大倉裕一君) はい。地元を調整して

いただくということで、やっと住民の皆さんの意をですね、酌んでいただく形が見えてきたかなというふうに思うんですけども、地元という方々を、どういった方々を対象にするかということも、また確認しておきたい部分じゃあるんですけど、行政のほうで沿線の方々にチラシをお配りになってとか、何かそういった方法を考えられるのでしょうか。どういった方法で地元呼びかけていかれるのか、そこを確認させてもらいたいと思います。

○環境部次長(宮川正則君) 委員長。

○副委員長(堀口 晃君) はい、宮川環境部次長。

○環境部次長(宮川正則君) まだですね、どういった形ですね、やるかということは、我々行政がですね、考えることも必要なんですけども、まずは地元ですね、お諮りをさせていただいて、—まあ地元といいますと、我々から申し上げますと、市政協力員さん方ですね。そういった方々にまずどういった方法をとるかということですね、御相談、こういったものをですね、させていただいて決めたいと思っております。

市が一方的に決めるんじゃないですね、あくまでも地元ですね、御意見、そういったものを踏まえた形で、どういった調査の仕方するか、つまり対象とそういったものを含めてですね、地元のお話聞いて決めていきたいと思っております。

○副委員長(堀口 晃君) はい、大倉委員。

○委員(大倉裕一君) 校区長さん、それから沿線の市政協力員さん、そういった方々を窓口にということですので、そのあたりは丁寧ですね、お願いをしておきたいというふうに思いますし、もう一点確認をさせていただきたいということでしたが、この調査体制という部分では、どのようなものを考えておられるんで

しょうか。

○環境部次長（宮川正則君） 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、宮川環境部次長。

○環境部次長（宮川正則君） 今回、騒音計と振動計の測定用ですね、装置とデータ管理ソフト、これをお願いしておりますけども、あくまでも機器がそろってですね、最終的にそれを実際測定するためにはですね、やはり職員が十分ですね、操作、それからいろんな外的条件、そういったものをですね、熟知をする必要があると思っております。

その体制の中には、今言いました装置の購入、それから、それを使いこなしてですね、正確なデータをとることができるような職員のやっぱりスキルアップ、こういったものをですね、含めて調査体制と考えております。よろしいでしょうか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。測定器はですね、どうしても購入せぬといかぬどということでは理解はするんですが、管理用のソフトですよ。ソフトというのは、今、市販のパソコンあたりで非常に便利なソフトがあって、そのソフトを活用した手づくりの部分も考えられると思うんですが、もういっちょ、その管理用のソフトを購入される必要性という部分をお聞かせいただいていいですか。

○環境部次長（宮川正則君） はい、委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、宮川環境部次長。

○環境部次長（宮川正則君） 基本的に、通常ですね、パソコンで使うデータ解析、これは、例えば統計学とかそういったものがございますけども、そういったものですね、データ管理じゃなくて、例えば騒音を騒音計ではかりますね。音をとりますですね。音をとったときに、その音をですね、まずその音が確実に新幹

線の音かどうかということも含めたですね、確認をする必要がございます。

それと、今度は全く違う、暗騒音との関係がありまして、暗騒音との比較、そういったものをですね、人が耳で聞きながら、しかもですね、数値的な計算によってですね、その差を十分確認をするといういろんなですね、ことが必要になってくるものですから、そういったものをですね、通常の、例えばパソコンのソフトを組んでやるということではできないと思います。

これは音響工学に基づいたですね、メーカーのほうでそのソフトをつくっておりますし、その内容についてはですね、環境省のほうで十分確認をした上でですね、ソフトが一般に使われておりますので、そういった意味からも、実際、手づくりでやるということではできないと思っております。

以上です。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。あとは沿線の方々のですね、思いが十分反映されるように対応をお願いをしておきたいというふうに思います。窓口は恐らく環境課ということでもいいんだろうと思いますので、ぜひその点をですね、強く要望しておきたいと思いますので、よろしくお願いしときます。

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、ほかありませんか。ないですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上の部分について質疑を終わります。

意見がありましたら、お願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。以上で第4款・衛生費について終了いたします。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

はい。それでは引き続き、第7款・土木費について、建設部から説明を願います。

○建設部長（船藏満彦君） 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、船藏建設部長。

○建設部長（船藏満彦君） はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部でございます。

本委員会に付託されました議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算（第8号）中、当建設部所管分につきまして、原総括審議員兼次長より説明させますので、よろしくお願いたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。

○建設部総括審議員兼次長（原 浩君） 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） 原建設部総括審議員兼次長。

○建設部総括審議員兼次長（原 浩君） はい。皆さん、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）それでは、座って説明させていただきます。

今回、補正をお願いしておりますのは、人事異動等に伴う人件費補正でございます。

予算書の7ページをお開きください。

款7・土木費では、補正前の額54億9080万5000円に、399万5000円を増額補正いたしまして、補正後の額を54億9480万といたしております。

17ページにお戻りください。各項目ごとに御説明いたします。17ページの下のほうでございます。

款7・土木費、項1・土木管理費のうち、目1・土木総務費では、職員6名分で260万5000円の減額でございます。

次の目2・建築総務費では、職員20名分で44万3000円の増額です。

18ページをお開きください。

項2・道路橋梁費のうち、目1・道路橋梁総務費では、職員1名増の21名分で、803万

4000円の増額です。

次の目3・道路新設改良費では、職員22名分で75万8000円の増額です。

項4・港湾費、目2・港湾建設費では、職員4名分で22万4000円の減額です。

項5・都市計画費、目1・都市計画総務費では、職員10名分で20万3000円の増額でございます。

次の目2・街路事業費では、職員5名分で176万3000円の増額。

次の目3・都市下水道費では、職員1名減の1名分で704万2000円の減額。

次の目4・公園費では、職員4名分で32万8000円の増額。

次の目5・区画整理費では、職員9名分で37万円の増額でございます。

項6・住宅費、目1・住宅管理費では、職員6名分で196万7000円の増額でございます。

以上、土木費における人件費補正は、職員108名分で、399万5000円の増額でございます。

よろしく御審議お願いたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい、ただいま説明が終わりました。

それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上で質疑を終了いたします。

意見がありましたら、お願いたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。なければ、これより採決いたします。

議案第115号・平成24年度八代市一般会計補正予算・第8号中、当委員会関係分について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○副委員長(堀口 晃君) 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。(「ありがとうございます」と呼ぶ者あり)

◎議案第118号・平成24年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計補正予算・第1号

○副委員長(堀口 晃君) はい。次に、議案第118号・平成24年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計補正予算・第1号を議題とし、説明を求めます。

○下水道総務課長(松本貞喜君) 委員長。

○副委員長(堀口 晃君) はい、松本下水道総務課長。

○下水道総務課長(松本貞喜君) おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり) 下水道総務課の松本でございます。隣が補佐の岩坂でございます。(下水道総務課長補佐兼水洗化促進係長岩坂義明君「よろしく願います」と呼ぶ)

座りまして説明をさせていただきます。

議案第118号・平成24年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計補正予算・第1号について御説明いたします。

別冊になっております補正予算書をお願いします。

予算書の1ページをお願いします。

第1条、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ67万1000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ1億399万とするものがございます。

内容につきましては、事項別明細書で御説明いたします。

5ページをお願いします。

3の歳出から説明させていただきます。

款1・農業集落排水処理事業費、項1・農業集落排水処理事業費、目1・農業集落排水事業費でございますが、67万1000円を追加

し、補正後の金額を4413万5000円とするものでございます。これは、人事異動等に伴う人件費の不足額でございます。

次に、2の歳入でございますが、款3・繰入金、項1・一般会計繰入金、目1・一般会計繰入金で、67万1000円を追加し、補正後の金額を6761万7000円にいたしております。

以上で説明を終わります。どうぞよろしく御審議をお願いします。

○副委員長(堀口 晃君) はい。それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(堀口 晃君) はい。それでは、以上で質疑を終了いたします。

意見がありましたら、お願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(堀口 晃君) なければ、これより採決いたします。

議案第118号・平成24年度八代市農業集落排水処理施設事業特別会計補正予算・第1号について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手をお願いします。

(賛成者 挙手)

○副委員長(堀口 晃君) はい。挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

(「どうもありがとうございました」と呼ぶ者あり)

◎議案第132号・契約の変更について

○副委員長(堀口 晃君) それでは次に、事件議案の審査に入ります。

議案第132号・南川大橋下部工(P5)受託工事に係る契約の変更についてを議題とし、説明を求めます。

○建設部理事兼街路公園課長(下川哲夫君) 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、下川建設部理事兼街路公園課課長。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君）

はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

建設環境委員会に付託されました議案第132号・契約の変更について御説明をいたします。座って説明をさせていただきます。

本契約の変更でございますが、都市計画道路南部幹線におきまして、1級河川南川に建設中の南川大橋5番目の橋脚の契約金額を変更するものでございます。

議案書では、上段に変更前、後段のほうに変更後を記載いたしております。

変更前。

1、工事名。南川大橋下部工（P5）受託工事。

2、工事場所。八代市植柳新町一丁目。

3、契約金額。2億4476万3223円。

4、契約の相手方。福岡市博多区博多駅東二丁目10番7号、国土交通省九州地方整備局、契約担当官、九州地方整備局長、中嶋章雅でございます。

次に、変更後でございます。

番号1、2の工事名、工事場所については変更前と同様でございます。

3、契約金額。2億919万88円でございます。前回より3557万3135円の減額となっております。

契約の相手方。契約担当官が九州地方整備局長、吉崎収にかわっております。

平成24年12月6日提出。八代市長、福島和敏でございます。

提案理由。議会の議決を経た契約のうち契約金額の1割以上または2000万円以上の金額に係る内容の変更につきましては、議会の議決を経る必要があるためでございます。

今回の減額になりました内容につきまして、

御説明をしたいと思います。

今回、P5橋脚を工事いたしておりますが、この橋脚や護岸工事の施工に伴いまして、土どめや水をとめる止水のための架設工事として、鋼矢板の二重締め切りを計画いたしておりますが、橋脚が完了し、その後、護岸工事での仮締め切りが大型土のうで施工が可能ということになりましたことから、鋼矢板のリースを早目に切り上げ、期間の短縮を行っております。これによりまして、リース料の軽減がなされております。

また、今回の施工で計画しておりました堤防の復旧につきまして、堤防舗装や川裏側の護岸工事が、次年度以降計画しておりますA2・P5の上の上部工につきまして、手戻り工事、取り壊し等が生じることが判明しましたことから、これらの工事を取りやめた経緯がございます。これによってもまた減額が生じてきたというふうに国交省から聞いております。

以上が今回の減額変更の主な理由でございます。審議方よろしく願いいたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ございませんか。

○委員（大倉裕一君） 済みません。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 図面か何かありませんか。もう少し詳しくお聞きしたいんですけど。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君）

これでいくと、P5の橋脚……

○副委員長（堀口 晃君） 下川建設部理事兼街路公園課長。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君）

はい、説明します。

○副委員長（堀口 晃君） 済みません、マイクを使ってもらっていいですか。説明者はマイクを。向こうで。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君）

よろしいでしょうか。

ここにP5橋脚をつくっております、こちら側が河川側になります。ここに鋼矢板の二重締め切りを行って、こちらの川側からの水の侵入を防ぐために、鋼矢板施工を、締め切りを行っております。

この部分ができまして、あと取りつけ護岸というのが今回の工事に含まれておりますが、この部分の護岸の工事につきまして、これだけの鋼矢板の設置ではなくて、もう大型土のう等で締め切りが可能というふうに聞いております。ですので、これの矢板を早目に引き抜いて、リース期間の短縮を行ってるということを聞いております。

それともう一つでございますが、現在委託を行っておりますのが、このP5橋脚でございます。今回このP5橋脚で掘削を行っておりますが、そのような復旧として、これだけの仕上げで復旧するという当初計画でございましたが、その後、ここにA2のアバットと上部工を施工することになります。この上部工の施工の際、こういう支保工を現場で設置する。そうしますと、この辺の手戻りとして、壊れたりいろんなことが出てまいりますものですから、今回の契約の中身を、この辺を削除させていただいた。これで減額が生じてるというふうに聞いております。

○委員（中村和美君） 課長、よかですか。ちょっといいですか。

○副委員長（堀口 晃君） 中村委員。

○委員（中村和美君） はい。この図面は、下流から上流を見たというこっだろう。

○副委員長（堀口 晃君） はい、下川課長。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君） はい、そうでございます。

○副委員長（堀口 晃君） よろしいでしょうか。

○委員（中村和美君） はい、わかりました。

○副委員長（堀口 晃君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上で質疑を終了いたします。

意見がありましたら、お願いいたします。

○委員（中村和美君） いいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、中村委員。

○委員（中村和美君） はい。意見ですが、非常に経費面でも研究して、執行部として努力してやっておられたちゅうことには非常に好感が持てたということでございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、ありがとうございました。

ほか意見ございませんか。

○委員（大倉裕一君） 済みません、質問になってしまうんですけど。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員、どうぞ。

○委員（大倉裕一君） 言わせてもらっていいですか。済みません。

○副委員長（堀口 晃君） はい、どうぞ。

○委員（大倉裕一君） あと、この差額が4000万——3500万ですか、ぐらいありますが、この使い道という部分はどうな検討をされているかというところをお聞かせいただきたいと思いますが。

○副委員長（堀口 晃君） はい、下川課長。

○建設部理事兼街路公園課長（下川哲夫君）

はい。差額として、3557万ほど差額が生じております。この金額につきましては、今委託のほうで国交省のほうに、予算上は委託費で組んでおりますが、これを工事請負費のほうに切りかえさせていただいて、先ほどこの図面でも説明しましたが、A2の橋台がまだ1基下部工として残っておりますので、その工事に入りたいというふうに考えております。（委員大倉裕一君「ありがとうございました。済みません」

と呼ぶ)

○副委員長(堀口 晃君) はい、ありがとうございました。

それでは、質疑を終了いたします。

ほか、意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(堀口 晃君) なければ、これより採決いたします。

議案第132号・南川大橋下部工(P5)受託工事に係る契約の変更については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○副委員長(堀口 晃君) はい。挙手全員と認め、本案は可決されました。(「ありがとうございました」と呼ぶ者あり)

◎議案第127号・八代市手数料条例の一部改正について

○副委員長(堀口 晃君) 次に、条例議案の審査に入ります。

まず、議案第127号・八代市手数料条例の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○建設部理事兼建築指導課長(羽多野俊光君) はい。

○副委員長(堀口 晃君) はい、羽多野建設部理事兼建築指導課長。

○建設部理事兼建築指導課長(羽多野俊光君) おはようございます。(「おはようございます」と呼ぶ者あり) 建築指導課の羽多野でございます。

議案第127号・八代市手数料条例の一部改正について御説明いたします。座って説明させていただきます。

議案書では13ページになっております。

今回の改正は、本年9月5日に公布され、12月4日に施行されました都市の低炭素化の促進に関する法律、略して都市低炭素化促進法に

基づき、建築物の認定制度が創設され、その事務に係る事務手数料の設定による改正でございます。

最初に、手数料改正の根拠となる法律及び認定の事務——認定制度の内容の概要を説明いたします。

説明資料を準備しましたので、資料の確認をお願いいたします。

都市の低炭素化の促進に関する法律に基づく認定事務について、右上に説明資料1と記入しているA4判、それと都市の低炭素化の促進に関する法律、裏面が、低炭素建築物の認定基準の概要を示したカラーの両面焼き、右上に説明資料2と記入しているA4判、合わせて2枚でございます。ごらんいただきながら説明させていただきます。

この法律は、社会経済活動その他の活動に伴って発生する二酸化炭素の相当部分が都市において発生しているものであることを受けて制定されたもので、内容は3つの内容になっております。

1つ目は、国が都市の低炭素化の促進に関する基本の方針を策定すること。

2つ目、市町村による低炭素まちづくり計画の作成ができること。

3つ目、低炭素建築物の普及の促進のための措置として、民間建築物の新築等に関する計画の認定制度が創設されたこと。

以上が内容の柱になっております。

今回の手数料の改正は、この3つ目の民間建築物の新築等に関する計画の認定を行う際に必要とする手数料を定めるものでございます。

説明資料1をごらんください。認定制度について説明いたします。

この認定制度ですが、今回制定された都市低炭素化促進法の中で、税制優遇などの組み合わせで一定の省エネ性能がある低炭素型の住宅や建築物の普及を後押しするために創設された制

度でございます。

まず、認定制度の内容の1、概要でございますが、認定機関は所管行政庁となっており、本市は特定行政庁でありますので、八代市の分は八代市が行うことになり、その事務を所管する建築指導課が行います。県内では熊本市、天草市が行い、その他の市町村は県が行います。

次に、対象区域は市街化区域等となっております。本市の場合は、用途地域が指定されている区域となります。この法律が都市部を対象とするものであることからでございます。具体的には、市の中心部、鏡地区、日奈久地区の中心部が対象になります。

認定基準は、資料にありますように、大きく分けて3つの基準があります。

(1)は外皮性能の基準でございます。これは外壁、窓等の断熱性能などの基準でございます。

(2)は一次エネルギー消費量の基準でございます。これは空調、換気、照明、給湯などの消費エネルギーの基準でございます。

(3)はその他の基準として、資料にありますように、①から⑧の基準のうち2つ以上の基準に適合していること、または標準的な建築物と比べて低炭素化に資する建築物として認められるものが要件となっております。

次に、認定による効果等でございますが、認定建築物につきましては、税制の優遇措置としての所得税、登録免許税の軽減や建築基準法に基づく容積率の緩和を受けることとなります。この容積率の緩和は、低炭素のための設備、蓄電池、蓄熱槽などを設置するときに生じる床面積が通常の建築物の床面積を超える場合に、容積率の計算から除くことができるというものでございます。

次に、3、認定の手続でございますが、認定は所管行政庁である八代市が行いますが、図に示しておりますとおり、審査機関が発行する適

合証を添付して認定を受ける手続としております。

適合証につきましては、先ほど説明しました認定基準について、適合しているかどうかを技術的能力のある外部の審査機関を活用して審査を事前に行うことで、合理的かつ効率的に行うこととしております。

以上が認定制度の概要でございます。

次に、条例の内容でございますが、議案書14ページから18ページをごらんください。

手数料の構成は、適合証の添付がある場合、ない場合、それと建築物の種類によって分けられておりまして、戸数及び面積で区分しております。建築物の種類につきましては、条文ではなかなかわかりにくいと思いますが、戸建て住宅、共同住宅、共同住宅と住戸以外の部分の複合建築物、それと一般の建築物となっております。

手続として、適合証を添付することとしておりますので、実質、適合証の添付がある場合の手数料を使用することになります。手数料の額は表にあるとおりで、県下行政庁統一した額となっております。

最後に、この手数料条例の施行でございますが、この議会の議決後の公布の日としております。

この都市低炭素化促進法が12月4日に施行されている状況ではありますが、事前に県下特定行政庁、県、熊本市、天草市とも協議を行い、それぞれの議会の議決を経て施行することで、県下統一する形にしております。

説明資料の2につきましては、ただいま説明しました都市低炭素化促進法と低炭素建築物の認定基準の概要となっております、これは国が作成しているものでございます。

この低炭素化促進法及び認定の際の基準等につきましては、内容が多岐で専門的で、細かく煩雑でありますので、この資料をごらんいただ

きまして、御要望がございましたら連絡をいただき、煩雑な資料を持って個別に説明に出向きたいと考えております。

以上が八代市手数料条例の一部改正についての説明でございます。よろしく願いいたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは、以上の部分について質疑を行いたいと思います。質疑ございませんか。

○委員（増田一喜君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） ちょっと見ただけだとよくわからないんですけど、14ページですかね、ここで、下の適合証が添付された場合のやつですね。一つの例ですけど、一戸建ての住宅、認定申請で6000円、変更の認定申請が3000円としてますよね。それからもう一つ、今度は15ページの適合証が添付されない場合の一戸建ての住宅の認定申請が3万6000円、それが変更後は、変更認定申請は1万8000円で、要するに何か適合証があってもなくても、半分に、50%減になるようなあれですけど、何か適合証が添付されたときのメリットちゅうのはあるんですか。何か、ただただ半額になっていくというような、そんな雰囲気しか受けないんですけれども。

○副委員長（堀口 晃君） 表の見方だと思いますですね。

羽多野建築指導課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

はい。表の最初の表ですね、一戸建ての住宅6000円というふうになっております。それが適合証が添付されない場合は3万6000円、要するに3万円高くなってるわけですね。この3万円分がさっき言いました基準に適合しているかどうかの審査分ということです。審査に際しては、エネルギーとか細かい計算をする必要があるんで、それだけの手数料がかかると

いうことでございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） ということは、適合証が添付された場合ちゅうとは、今までだったら認定申請が一戸建てで6000円だったちゅうことですよね。そのときに、適合証がなくて認定申請すると、今度は、この表の見方だったら、次の適合証が添付されない場合の認定申請というところのほうに見るわけですか。だから、6000円が3万6000円に申請が上がりますよと、適合証がなければ。そういうとり方していいんですか。

○副委員長（堀口 晃君） 羽多野建築指導課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

まず、この表の見方ですが、認定申請と変更認定申請とあります。変更認定申請というのは、一度認定されて、そして増築とかそういうの行われたときに変更する場合の手数料ということで、それだけ安くなるということですね。適合証が添付された場合、そしてされない場合という2つに分けてあるわけですね。だから、添付されない場合は、行政庁に出していただいて、その辺のチェックですね。基準についてはまだ審査されてる状態なんで、それを除いた審査ということで、審査手間が省けるんで、それだけ安くなるということです。

○副委員長（堀口 晃君） よろしいですか。

○委員（増田一喜君） はい、わかりました。

○委員（橋本幸一君） もう一つよろしいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） この入りの段階ですが、これは何ですかね、新築だけですか。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、羽多野建築指導課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

新築、増築、改築も入っております。（「増築」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） これは結局、つくる人が市のほうに申請して、こういう設計でやりますちゅうことで、その辺で審査されて、適合か適合でないかということ判断されるわけですね。

○副委員長（堀口 晃君） 羽多野課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

これは、あくまでもそういう認定を受けたい人、認定を受けることによって税金の特例措置とかそういうのを受けられるんで、そういうのを受けたい人が、希望する人が出されて、そして行政庁が認定すると。だから、希望される方が申請者になるということですね。（「義務じゃないちゅうことか」と呼ぶ者あり）

○委員（中村和美君） はい、いいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、中村委員。

○委員（中村和美君） じゃ、新築の場合にしても、設計事務所がどうせ、家建てたいなど我々なんか素人が言ったときは、設計事務所が入ってしょうが。その設計事務所にこういうのを勉強させて、そっちのほうから、こういう低炭素化のこういうのがありますからという徹底の仕方の方法というのもあると思いますが、いかがでございましょうか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、羽多野課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

この法律も今月の4日に施行されて、あと基準関係も今月の3日に確定したという状況です。今後、年が明けてからですね、1月に県と県下の行政庁一緒になってですね、説明会を開催することになっております。

これが施行された後、今後ですね、ホームページとか広報紙とかそういう一般の方にはです

ね、広報したいということで考えております。

広報はこれからということでございます。

○委員（中村和美君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、中村委員。

○委員（中村和美君） 何かもうわからぬ、そのやり方、これからのやり方を、そうやって素人ならば、そういう設計事務所等なんかに、こういう法律がでけとりますのでというのを市のほうから徹底してもらえば、素人は、ああ、こうすると少しでも安く、——建てられるちゅうとおかしなばってな、減免されるなて思えるんじゃないかなというふうに思いますので、もうあと結論としては、聞かぬですが、そういう利用方法も、設計事務所等の打ち合わせなんかも必要ではないかというふうにお問い合わせをしたいと思います。

○副委員長（堀口 晃君） はい、要望で。

はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） 今は新築、増改築等に任意に申請ちゅうような形なんですけれども、太陽光パネルですね、太陽光の発電パネル、こういうのをしたのも対象になるのかなど。もう既にしてある人はもうだめちゅうことですかね、結局は。

○副委員長（堀口 晃君） はい、羽多野課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

新しくできる、——例えば、これは認定されてから着工という形になるんで、だから、もう既にできてるちゅうことは、もう着工されてることなんで、対象にならないんじゃないかと。ちょっとその辺は確認しないとイケないんですが、認定されてから着工することとなったりしますんで。

○副委員長（堀口 晃君） よろしいですか。

（「一遍外してせぬばんとだろ」と呼ぶ者あり）ほか、ありませんか。

はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。認定による効果で、減免とかがですね、ここ書いてあるんですけど、標準的なモデルケースでこれぐらいっていうのは何か具体例はないでしょうか。例えば、40坪の新築の場合で、これぐらいの減免があるよとか、例示がもしあればお願いしたいと思います。

○副委員長（堀口 晃君） はい、羽多野課長。

○建設部理事兼建築指導課長（羽多野俊光君）

標準的な例というのは、ちょっと手元に資料もないんですが、この説明資料2ですね、この左側のほうに税金関係の軽減というのの表があります。1つは控除額ですね、これが24年度で一般は300万ですが400万ということで、住宅を新築する場合はこれ以上かかるとあります。だから、これ、それ以上の住宅だったらこれが適用されるということだけです。幾らというのは、——400万、25年度で300万、控除額になりますよということだけの話になります。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。税の話になると、非常にですね、複雑で難しかところがあるんですけど、一般の市民というのは、なかなかこのあたりを理解していくというのは難しい部分があると思います。

先ほど、中村委員のほうからも意見があつてりましたけれども、この法律をですね、やっぱり周知して浸透させていくという方法が、これから大きな課題かなというふうに思いますので、わかりやすいですね、説明と資料提供、そういったところで普及していただくように、浸透していただくようにですね、お願いをしておきたいというふうに思います。

また個別にお尋ねはさせてもらいたいと思いますので、よろしくお申しときます。

○副委員長（堀口 晃君） はい。ほかありま

せんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。なければ、以上で質疑を終了いたします。

意見がありましたら、お願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） なければ、これより採決をいたします。

議案第127号・八代市手数料条例の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○副委員長（堀口 晃君） はい。挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）
ありがとうございました。

◎議案第129号・八代市風致地区内における建築等の規制に関する条例の制定について

○副委員長（堀口 晃君） 次に、議案第129号・八代市風致地区内における建築等の規制に関する条例の制定についてを議題とし、説明を求めます。

○都市政策課長（松本浩二君） 委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松本都市政策課長。

○都市政策課長（松本浩二君） こんにちは。

（「こんにちは」と呼ぶ者あり）都市政策課長の松本でございます。議案第129号・八代市風致地区内における建築等の規制に関する条例の制定について御説明いたします。座って説明させていただきます。

それでは、議案書の21ページ及び22ページから31ページまでが本条例案になります。

まず初めに、風致地区の説明をさせていただきます。

風致地区とは、都市に残された山の緑や清らかな水などの自然的要素に富んだ良好な景観を

維持するために定める都市計画法に基づく地域地区の一つでございます。この良好な自然環境や歴史的景観を保持している地域、文化財、社寺等のある区域などを指定しているものでございます。

この風致地区では、都市計画法に基づき、風致政令で定める基準に従い、地方公共団体の条例により、風致の維持に影響を及ぼす建築物の建築、宅地の造成、木竹の伐採などの行為に対して一定の規制を行うことで、自然景観との調和を図りつつ、都市環境の保全を図っております。

お手元にお配りしておりますA4判の都市計画図をごらんください。

この風致地区を八代市では1カ所、古麓町の春光寺東側一帯の山麓、約13.7ヘクタールの区域を古麓風致地区としまして、昭和46年に都市計画決定いたしているところでございます。

この地区は、四季を通じて市民行楽の地である春光寺周辺の静寂な自然環境を保全する目的で都市計画決定されておりました。これまで熊本県の風致条例によって、地域の変貌をもたらす行為に一定の制限を加えてきたことで、その自然的景観が維持されてきたところです。

本日御審議いただきます議案につきましては、いわゆる地域主権に関する第2次一括法が施行され、風致地区に関する政令の一部改正がなされたことを受けまして、法令に基づく権限移譲によりまして、これまで県にありました10ヘクタール以上の風致地区に係る行為の許可に関する条例の制定及び許可事務の権限が市町村に移譲されましたことから、10ヘクタール以上の風致地区を有します八代市でも、新たに本条例を制定する必要が生じたものです。

条例で定めます規制の内容といたしましては、これまで熊本県の条例に基づき、八代市でも指導、事務を実施してきましたことから、今

回の条例につきましても同様に、政令の規定に従い、県条例を踏襲する内容といたしております。

続きまして、条例の主な内容につきまして、条文に沿って御説明をいたします。

議案書の22ページをお願いいたします。

第1条では、この条例を定める趣旨を定めております。

第2条では、第1項で、地区内における建築物等の新築、増築や宅地の造成などは市長の許可が必要な行為を、第2項では、都市計画事業として行う行為や風致の維持に著しい支障を及ぼすおそれの少ない行為の場合は許可を要しないことを、第3項では、国や県が行ういわゆる公共事業については、許可にかえて協議とすることを明記しております。

また、24ページの第3条では、高速道路の新設や改築などの適用除外となる行為を規定しております。続きまして27ページの第4条では、許可が必要な行為の許可基準を示しております。

続きまして、飛びますが、30ページの第5条では、風致維持のために行う市長の助言または勧告について、また第6条では、許可の取り消しやその効力を停止するなどの監督処分について記載をいたしております。

31ページの第7条では、この条例施行のために必要な立入検査の実施について定め、第8条では、条例の施行に関し必要な事項は規則で定めることを、同じく第9条から第11条までは、違反した者に対する罰則を規定し、罰金に処す旨の規定を設けております。

なお、施行の時期につきましては、この政令の施行日であります平成24年4月1日から3カ年の経過措置が設けられておりますことから、熊本県と歩調を合わせ、平成25年4月1日に同時施行する予定といたしております。

以上で説明を終わります。御審議のほど、よ

ろしくお願いいたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。ただいま説明が終わりました。

それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（中村和美君） はい、委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、中村委員。

○委員（中村和美君） はい。お尋ねします。この古麓地区は、大体が風致地区というのになっとすると、地元の人たちは、これはみんな完全に理解しておられるのかな。お聞きします。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松本都市政策課長。

○都市政策課長（松本浩二君） この地区が都市計画決定されたのが昭和46年で、約40年間経過をしているところですが、この土地のほうで、約半分弱、3分の1程度が市有林、そしてあと残りが主に春光寺さん、あとは古麓の稲荷神社の境内の敷地でございまして、現在までこちらの記録に残っておりますところから見ましたら、春光寺さんの申請で3件、あと石材屋さんの申請で1件、4件程度、ここ20年間ぐらいで申請がなされている状況で、余り民有地が入り組んでいない土地であるというふうに考えております。

以上です。

○委員（中村和美君） はい、委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、中村委員。

○委員（中村和美君） なぜ言ったかちゅうと、民有地ならば、やっぱり知らずにですね、破ってということになってですね、大ごとすること、もめごとになるて、裁判になるということもあるんじゃないかと思いましたが、まあ春光寺さんとか、あと一、二軒でしたら御存じだと思いますし、またこういう新たなる規制とか、を御理解をいただくようにということですね、努力をしていただけたら、もめごともなく

なるんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○副委員長（堀口 晃君） はい。ほかありませんか。

はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） この地区の期限というのは、何年更新とかあるわけですか。永久にずっとこの指定を。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松本都市政策課長。

○都市政策課長（松本浩二君） はい。都市計画決定を行いますので、いつまでということではありませんで、もしもこの地区がどうしてもこういう景観を維持していくのに無理が生じていていきますか、何かの事態がありましたときに、都市計画決定によって変更あるいは廃止という手続がない限り、永久に続くという形になります。

○副委員長（堀口 晃君） よろしいですか。

はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） これはちなみに、以前私が地方分権のことで質問したとき、権限移譲に伴う結局予算措置置っていくか、恐らく事務費とかが移譲されておる、その辺の部分はどうなってるんですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松本課長。

○都市政策課長（松本浩二君） 今回の権限移譲につきましては、法定の権限移譲になりますので、従来、県から事務手数料といいますか、八代市が申達業務とか、これまでもやっていたんですが、そういうのはなくなるというふうに考えております。

○副委員長（堀口 晃君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） じゃ、もう予算措置で全然ないと思ってよろしいんですね。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松本課長。

○都市政策課長（松本浩二君） はい、この条例の許可事務につきましては、予算措置等は特

段考えておりません。

○副委員長（堀口 晃君） よろしいですか。

○委員（橋本幸一君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい。ほかありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。以上で質疑を終了いたします。

意見がありましたら、お願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。なければ、これより採決いたします。

議案第129号・八代市風致地区内における建築等の規制に関する条例の制定については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○副委員長（堀口 晃君） はい。挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

（「どうもありがとうございました」と呼ぶ者あり）

◎陳情第6号・八代市発注の競争入札参加資格者選任について

○副委員長（堀口 晃君） はい。それでは次に、請願・陳情の審査に入ります。

当委員会に付託となっております継続審査の陳情1件です。

それでは、陳情第6号・八代市発注の競争入札参加資格者選任についてを議題とします。

要旨は文書表のとおりです。

本陳情について、質疑、御意見等はございませんか。

○委員（大倉裕一君） 委員長、いいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。これ前回、9月議会で上げられた陳情ですけれども、その審査をする中で、前回、専門的にちょっとお聞きを

したいというような内容もあったかというふうに思います。特に独禁法とか競争性を阻害するような部分がないのかですね、そのあたりを担当課のお話も聞いてみたいと思いますので、よければ担当課のほうを入れていただければと。

○副委員長（堀口 晃君） はい、わかりました。執行部からの説明ということで。

じゃ、小会いたします。

（午前11時01分 小会）

（午前11時02分 本会）

○副委員長（堀口 晃君） それでは、本会に戻します。

桑田契約検査課長。

○契約検査課長（桑田謙治君） はい、委員長。

○副委員長（堀口 晃君） どうぞ。

○契約検査課長（桑田謙治君） はい。御質問の点ですが、今回陳情された内容について、独占禁止法等に抵触する部分はないのかどうかという点でございますが、一応これにつきましては、公正取引委員会九州事務所というところがありまして、一応、参考のために照会をいたしております。

照会した回答内容について簡単に御報告いたしますと、今回要望——電気工事協同組合2団体の方が要望をされていらっしゃるということで、中身につきましては、本社を置き、電気工事協同組合に加入している業者を最優先に指名するとか、あと、八代市に営業所等を設置して20年未満の電気工事業者につきましては指名をしないとか、そういった点が要望事項等あったかと思いますが、このあたりについてちょっと確認を、照会をいたしましたところ、基本的に要望自体については、業者さんのそういった団体の要望ということで、何ら要望自体については独禁法等については問題はないんじゃないかということで、あと、どちらかといいます

と、この要望云々について、市等が何らかを採用するかどうかというのは、市の発注方針、市の選定基準にかかわる部分にかかわるということで、その後、それにつきましては市の判断をどうされるかということでございます。

ただ、もし仮に採用し、そういった形での要望に沿ったような選定をした場合に、一番心配されるのが、特定の業者に偏ったり、もしくはそういった組合だけでされる場合、仮にそういった組合だけを最優先に指名したとかした場合に、当然、その組合員同士で談合等の疑いにつながったりした場合は、そういう場合については問題が出てくるんじゃないかということで、そういった情報等があった場合は、当然、市としてもそういった疑いがある場合は、公正取引委員会に報告をしなければならないという規定もありますし、公正取引委員会としても、当然、調査対象になるということでございます。

要は、そうした場合に、一つは、先ほど言いましたように、この選定方針、発注方針については、もう市のほうの考え方ということで、それ自体はもう市のほうでどうされるかということでございます。ただ、先ほど言いましたように、そうした場合に、ある特定業者に偏ったり、そういった組合員から選ぶという形になった場合に談合等につながりかねないというおそれがあった場合は、当然、法に抵触する場合も出てくるんじゃないかということでございます。

市としましても、基本的に、今選定につきましては、任意の組合に加入されてらっしゃるからといって、特に優先的な指名を今現在しているところではございません。当然、選定に当たっては、そういった経営状況とか工事成績、地理的条件、手持ち工事の状況、そういった——あと当該年度における指名回数、受注の状況等を総合的に勘案して、特定の者に偏らないように

選定を今いたしてるところでございます。

ということで、そういった特定の任意の団体に加入されていらっしゃるからといって、特に優先的に指名をしているということではございません。

ただ、災害協力団体等につきましては、市に貢献をされるということでございますので、そういった災害協定団体等につきましては、配慮はしているところでございます。

以上でございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、ありがとうございました。

何かお聞きしたいこと、質疑ございますか。

○委員（増田一喜君） 質疑的にはないんですけどね。質疑はないけど、ちょっと意見いいですか。

○副委員長（堀口 晃君） ああ、御意見。はい、どうぞ。増田委員。

○委員（増田一喜君） この件については前にもちょっと審議しておりますけどですね、どうも、この文言的にひっかかるんじゃないかなというところがあるんですよ。気にかかるのがあるんですよ。まあ業者さんたちの気持ちはわかりますけどですね。

以前、電気業界さんのほうなんか、電話一本、転送電話一本で、市外の業者さんが八代の事業をとっていかれるということで、以前やはり電気業組合さんのほうから陳情書が出て、そこらはきちんとやってほしいちゅうことで対応していただいております中で、ここですね、文書からいくと1番の、一般競争・公募型入札において最優先の選任に配慮願いたい、これはまあ、以前の気持ちと一緒になんでしょうけども、ただ1項めで、(1)のところですね、八代市に主たる事務所（本社）を置き、かつ八代市に所在する電気工事協同組合に加入しているというふうに、ここまで、かつからですね。加入しているちゅうこの文言で、余りにも限定し過ぎると

いうところがある。

八代でも組合に加入してない業者さんもおられるし、そこまでちょっと外してしまうような文言では、もともと市外の業者さんじゃなくて市内の業者を優先してほしいちゅう趣旨から少し離れるのかなということがあるので、このかつからのですね、かつ八代市に所在するちゅうこの文言は、外したほうがいいのかないかという気はいたします。

それと2項目めが、20年以上とか、余りにも数字がきっちりし過ぎてですね、20年という相当の長い期間ですからですね。これも余り限定し過ぎてしまう。

だから、最終的には、極端な話をすれば、数社しか残らないみたいなですね。もし5企業の人たちが組合をつくってたら、そこにしか行かないちゅうような、今度は、これはやっぱりそうすると、言われるように、気持ちは独禁法にはかからないでしょうけど、これをやってしまうと、今度は独禁法に抵触するんじゃないかなちゅうところがあるからですね。

ほかにも2項目めのところにもやっぱり、(3)のところには20年未満とか、余りにもそういう限定してしまうところあるから、もう少しこのあたりの文言とかを訂正とか何とかされるとか、そういう方法を考えてもいいんじゃないかなと思うんですけども。

私はこれちょっともう、今回については継続という形のほうがいいのかなと。そのあたりももう少し勉強してですね、やったほうがいいかなとは思っておりますけれども。

以上です。

○副委員長(堀口 晃君) はい、橋本委員。

○委員(橋本幸一君) はい。私もですね、今ずっとまた今回も見まして、公平性という点で、やっぱり非常に疑問が残る部分もあるし、もっとここは深めて議論する必要もあると思いますから、継続のほうで私もいいかと思いま

す。

○副委員長(堀口 晃君) はい、わかりました。

田中安委員。

○委員(田中 安君) 今の話、説明によりますと、やはり今、業界の皆さんの代表については、執行部のほうは、選定については十分に配慮しているというお話でございました。だから、1項目、2項目と2つに分けて、選任しないよう配慮願いたいとか最優先に選任に配慮するというお話は、執行部はもう十分にしてるんだというふうに思います。

だから、ある意味じゃですね、選任しないよう配慮願いたいとかですね、そういう文言があるから、私はこれは受け付けないで審議未了にしておいたほうがいいんじゃないかと。ということはですね、やはりこういうふうなのを議会で受け付けたということのほうが、それがかえって問題になるんじゃないかというふうに思いますのでですね、審議未了にさせていただいて、もうそのあたりは執行部はわかるとるばいということで済ませたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○副委員長(堀口 晃君) はい。ほかございませんか。

○委員(中村和美君) はい。

○副委員長(堀口 晃君) はい、中村委員。

○委員(中村和美君) はい、中村でございます。

まあ、この文章を見た中では、縁戚者や知人宅を便宜上営業所に充てるとか、専任技術者がいないとか、これはもつてのほかのことだとは思いうし、それとか20年以上経過してなければ入札参加できないとかですね、これはちょっとあんまりハード的な言い方じゃないかなというふうには思います。

ただし、気持ちはわかります。我々なんかも

小さな会社ですけど、法人税、そして固定資産税、払っとるわけですから、そうしながら市にとかから仕事を——私はもらっておりませんが、そういう努力している企業はたくさん八代におる。こういう企業は大事にせぬばいかめて思ったときに、私も継続か審議未了にどちらかで、もう一回新たなですね、こういう出し方で、ぜひ八代に、こうやって頑張るとる電気工事組合であるから、ぜひ仕事をよろしく願いしますというような言い方の請願かであったならばいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○委員（松浦輝幸君） よか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、松浦委員。

○委員（松浦輝幸君） 私も、気持ちはですね、気持ちは田中委員の言われたように、いろいろの文章とかいろいろそうしたことから考えたら審議未了でいいかなと思います。まあ一回ですね、文章書き直しなと、それをするなり、恩義をしてですね、審議未了じゃなくして、継続で今回、まあ一回やっつけばどうかなというふうに思っています。

○副委員長（堀口 晃君） はい、わかりました。

ほかありませんか。

○委員（大倉裕一君） よかですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。各委員さんも述べられてますけども、私は田中委員の意見に賛同しております。審議未了で取り扱わせていただければというふうに思っています。

その理由としては、やはり仕事を地元で優先的に出すという、その考え方は理解できるんですけども、やはり競争性を阻害するような内容の文章がこの中に入っているということがあります。その部分を議会がやはり認めていくということに対しても、非常に問題が出てくるん

ではないかという、その点が尽きるのかなというふうに考えてます。

ただ、この方々の趣旨という部分では、前文の中段ぐらいのところにあるように、営業所とは名ばかりで常駐する社員はおらず、所内には転送電話があるのみという同業者も参入してきていると。そういう業者が案件を受注しているという状況が実際にあったために、このような陳情を上げてこられたというのも事実だろうというふうに思います。

ですから、そういったところを推していただく陳情であればいいのかなとは思いますが、この内容の部分では、先ほど言いましたように、少し理解しがたいところがありますので、今回のこの件については、審議未了という取り扱いで私はお願いをしたいというふうに思います。

○副委員長（堀口 晃君） はい。もう委員の皆さん、それぞれ意見が出尽くしたというふうに思います。

では、ちょっと小会をしたいと思います。

（午前11時16分 小会）

（午前11時20分 本会）

○副委員長（堀口 晃君） それでは、本会に戻します。

○副委員長（堀口 晃君） ただいま、継続審査を求める意見と審議未了を求める意見がありますので、まず継続審査についてお諮りをいたします。

本陳情について、継続審査とするに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○副委員長（堀口 晃君） はい。挙手多数と認め、本件は継続審査とすることに決しました。

課長、どうもありがとうございました。

○契約検査課長（桑田謙治君） ありがとうご

ございました。

○副委員長（堀口 晃君） 以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

○副委員長（堀口 晃君） お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については、委員長に御一任いただきたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） 異議なしと認め、そのように決しました。

◎所管事務調査

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
- ・生活環境に関する諸問題の調査

○副委員長（堀口 晃君） 次に、当委員会の所管事務調査2件を一括議題とし、調査を進めます。

当委員会の所管事務調査は、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査、生活環境に関する諸問題の調査、以上2件です。

・生活環境に関する諸問題の調査（ごみ非常事態宣言後の状況について）

○副委員長（堀口 晃君） このうち、生活環境に関する諸問題の調査に関連して2件、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

小会いたします。

（午前11時23分 小会）

（午前11時24分 本会）

○副委員長（堀口 晃君） それでは、本会に戻します。

まず、ごみ非常事態宣言後の状況について、お願いいたします。

○環境部長（福田 晃君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部

長。

○環境部長（福田 晃君） はい。お世話になります。

ごみ非常事態宣言後の状況について、ごみ対策課の課長でございます山口が報告申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、山口ごみ対策課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。ごみ対策課の山口でございます。よろしく願いいたします。座って説明させていただきます。

ごみ非常事態宣言後の状況につきまして、今年度の10月と11月の分の御報告をさせていただきます。

それと資料のほうですけれども、表のほう、1枚目と2枚目、数値に誤りがございましたので、差しかえのほうをお配りさせていただいております。（「これなしか」「こっちな」と呼ぶ者あり）よろしかったですか。（「担当箱んとはなしやね」と呼ぶ者あり）はい。それでは、そちらのほうで説明をさせていただきます。

まず、収集いたしましたごみでございますけれども、10月で1569トンでございました。21年と比べますと16トン減量になっております。一般の許可業者等から集めました搬入ごみと合わせまして、トータルいたしまして2410トンでございます。21年と比較して、月で87トン減っております。年間につきましては、その下のほうで、1039トン減量ということになっております。

一方、資源物のほうですけれども、21年と比較して、月当たり21トン増量しております。過去1年間と比べますと、210トンの増量となっております。トータルいたしまして、資源物の搬入量でございますが、月で459トン、年間の、過去1年間でございますが、55

26トンということで、ふえている状況でございます。

それから、処理実績でございますが、収集量と直接搬入合わせまして2410トンございまして、それから中間処理をいたしました可燃物を合わせまして2570トン発生しております。そのうち、焼却いたしましたのが1442トンございまして、外部委託量が985トンを委託しております。

焼却炉の運転状況でございますけれども、1号炉は29日の運転で1072トン焼却しております。2号炉につきましては、10月の11日より排ガス工事のために停止を行っておりますので、稼働日数としましては10日間、それまでに燃やしました量が370トンございました。

そういうことで、排ガス工事に伴いまして外部委託量がふえているという状況でございます。

日曜資源の日につきましては、10月の実績で、合わせまして8.4トンということでございまして、夏場に比べて若干量的には減ってきている状況です。10月は運動会ですとか行楽シーズンもございましたので、その辺の影響かなとも考えております。

続きまして、めくっていただきまして11月でございます。

11月につきましては、1カ月で収集しました量が1451トンとなっております。可燃物、全体合わせまして2234トン、可燃物として搬入はされております。

それから資源物のほうですけれども、1カ月で450トン、年間——過去1年ですけれども、5560トンという実績でございました。

処理実績につきましては、可燃物量が2343トンということで、その後、焼却処理いたしましたのが1144トンでございます。外部委託が1162トンでございました。10月に引

き続きまして、11月は2号炉のほうを完全に1カ月間停止をしております。その分で、10月よりも若干外部委託量がふえております。

なお、排ガス工事でございますが、2号炉につきましては、今週の月曜日に火入れを行っております。2日間の乾燥だきを今行っております。本日午後、夕方ぐらいから実際にごみを投入しまして、焼却を開始したいと思っております。徐々に焼却量のほうを上げながら、炉の排ガスの状況と、それから焼却灰の状況を見ながら、適正な数値を得られるまで試験をしたいと思っております。

実績については、御報告は以上でございます。

それでは、続きまして、もう一つの資料をお配りしておと思いますが、——清掃センター西側壁面一部崩落についてということでお配りしております。よろしいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい。

○ごみ対策課長（山口 剛君） ページをめくっていただきまして、平面図のほうを載せております。その中に①、②、③、④ということで、後にお示ししております写真の撮影位置を落としております。

12月の6日の夜でございましたけれども、清掃センターの南西側の角の部分のモルタルが夜間に崩落をいたしまして、早朝、落ちているということで報告を受けたものでございます。

状況でございますが、写真のほう、めくっていただいて、全景の①ということで、今回剥離しましたところを赤線のところで示しております。

次に、2枚目のほうの写真でございますが、先ほどの赤の部分の詳細な写真でございます。今回剥離しましたところが、広さにしまして、約13.5平米程度でございまして、上部部分が崩落をしております。下のほうの部分につきましては、まだ残っている状態でございます。

次の写真の3番目ですけれども、その部分を少し遠景から撮影したものでございまして、今囲んでおります赤の部分が崩落したところでございますが、その反対部分のところも同じようなモルタルが塗られておるところでございます、こちらのほうは、今のところ、まだ崩落はしておりません。

次の4番目の写真でございますが、こちらのほうは東側の事務所の上の壁の状況でございます。こちらのほうは平成11年の台風のときに崩落をいたしまして、そのときに落とせるモルタルの部分は撤去を行っております。その下の写真は、一部落とせなかった部分が若干残っているという状況でございます。

次の一番最後の写真でございますが、今回落下しましたモルタルの状況でございます、厚みが45ミリ程度ございまして、かなり重いものでございます。下のほうの写真は落下した状況でございます。

この周辺につきましては、破碎機の外側ということになっておりまして、破碎機の運転につきましては、週に1回ぐらい運転をしております、夜間ということもありまして、作業員その他、けがというようなことは発生しなかったと、幸い起きなかったというふうに考えております。

今後、安全対策でございますけれども、崩落しましたところとあわせて、残っております反対の側にはですね、一応バリケードをしまして、現在、立入禁止ということで、委託職員、それから一般の方々もこちらのほうには入れないようにということで対応をしております。

今後の予定でございますが、残っております半分部分と、それから北西側で残っておりますモルタル部分、こちらのほう、それから11年度に撤去しました残りの部分、こちらのほうをもう一度落として、落下する前にもう落として

しまいたいということで、今考えておるところでございます。

それから、工事費用ですけれども、現在、見積もりをとっているところでございますけれども、できれば既決予算の修繕料、その他入札残等を合わせまして処理費をできればと思っておりますが、あと養生費ですとか足場、その他がまだどのくらいかかるかということがしっかり判明をしておりませんので、できれば既決予算の中で、ほかの委託料ですとかそういうところ流用をしながら、何とか対応をできればなということで、財政のほうとも協議していきたいというふうに考えております。

一応、御報告させていただきます。

○副委員長（堀口 晃君） ただいま報告が終わりました。

ごみ非常事態宣言後の状況についてと、外壁の一部崩落について、あわせて質疑、何か御意見等ございませんでしょうか。

はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。11月、12月と、公民館祭りとかふるさと祭りとかが各所で相次いで行われたというふうに思いますし、12月8日は人権フェスタが総合体育館で開かれています。こういったイベントに対してのごみ非常事態宣言に関する協力依頼、ごみの減量化、分別、そういったのは、担当課のほうからどういった動きをされておりますでしょうか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、山口ごみ対策課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） 今、委員御指摘がありましたフェスタとか、そういうところで協力依頼というのは、今のところしていない状況でございますが、今回は衆議院議員の期日前投票がございましたので、こちらのほうの入り口付近に、今度作成しましたチラシのほうをですね、掲示させていただくということで施設管理者等と打ち合わせをしまして、掲示をさせ

ていただいておりますという状況でございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 部長、イベントのごみについてという取り組みを、私は話をさせていただいたと思ったと思い、記憶がありますが。

○環境部長（福田 晃君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田 晃君） はい。確かに大倉委員からあっております。そのときも依頼をしていくちゅうことで一応お答えはしております。申しわけございませんが、してなかったちゅうことを私のほうも把握しておりませんで、申しわけなく思っております。

イベントについては、必ずプラスチックとか特にたくさん出ますので、その関係は資源ごみのほうに持っていくようにですね、うちのほうも、当然、協力依頼を主催者のほうにすべきだと思っております。そちらのほうをちょっと、していないちゅうことをちょっと私のほうも把握しておりませんで、申しわけなく思っております。

以上です。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） これまでの動きを見ていて、ほんと市の職員さんが一丸となつてごみ減量に取り組む姿勢ちゅうのが見えぬとですよ。非常事態宣言で、ほんと看板だけならば、もう非常事態宣言やめならんですか。私はもうそっでよかと思えます。本気で取り組んどんなる姿が全く私たちに伝わってこないの、非常に残念です。

行政がここまで清掃センターの老朽化引っ張ってきたわけですから、市民の皆さんに迷惑をかけているという思いがあるのであれば、もう一度市の職員さんで一枚岩になって取り組む、その姿勢を見せてほしいと思えます。（環境部長福田晃君「はい、わかりました」と呼ぶ）

○副委員長（堀口 晃君） はい、頑張ってくださいと思います。

ほか、ございませんか。

はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） この崩落状況の写真があるんですけど、夜間ちゅうことで人間には影響はなかったということですけども、この下にいろいろ機械とかそういうのもあるんじゃないかなと思うんですけど、運転のほうには何も影響はなかったんですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、山口ごみ対策課長。

○ごみ対策課長（山口 剛君） はい。こちら、落下しました下のところでございますけれども、その1つ入りました建屋の中に破砕機というのがございます。そちらのほうは先ほど申しましたように、1週間に1回程度の運転量をしておりまして、それを破砕した後、建屋の外にベルトコンベヤーですとかホッパーとか、そういう機械がございますけれども、幸いそちらのほうには影響はなかったということでございます。ただ、一部エアコンの室外機が1カ所ございましたけれども、そちらのほうがちよつと潰れていたという状況でございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） はい。まあ人にも影響はないということで、その程度で済んで幸いだったかなとは思いますが。不幸中の幸いかなと思えます。

それと、この写真なんか見ると、ほんとにまだ残ったモルタルがあるもんだから、もう全てモルタルは撤去した方がいいんじゃないかと、私も写真見たときは思ったんですけども、その方向に向かってやりたいというお話がありましたので、そういうのは早急にやられたほうが、安全のためには非常に有効じゃないのかなと思っておりますので、それはお願いしときたいと思えます。

○副委員長（堀口 晃君） はい。ほかありませんか。よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。以上でごみ非常事態宣言後の状況について、外壁の一部崩落についてを終了いたします。

・生活環境に関する諸問題の調査（八代市環境センター建設事業の進捗状況について）

○副委員長（堀口 晃君） はい。次に、八代市環境センター建設事業の進捗状況について、お願いいたします。

○環境部長（福田 晃君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田 晃君） はい。環境センター建設事業の現在の進捗状況について、小橋課長が説明申し上げます。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい、委員長。

○副委員長（堀口 晃君） はい、小橋環境センター建設課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）八代市環境センター建設事業の、この中で本日御説明いたしますのは、事業者選定委員会のフローにつきまして、進め方、それからこれまでの経緯などを御説明させていただきます。座って説明させていただきます。

お手元の資料をごらんいただきたいと思います。

これまで事業者選定委員会のほうが4回開催しております。3回までの会議の内容につきましては、建設環境委員会のほうに御報告したところでございますが、4回目、2カ所この委員のメンバーで視察をされております。

クリーンヒル宝満——これは福岡県ですが、筑紫野市を中心とした広域の施設です。クリー

ンヒル宝満、それからクリーンパーク臨海——これは福岡市内の箱崎地区にあるところなんです。委員の中から、1回もこういった施設を見たことがないということで御意見がありまして、委員会として見に行かれたところでございます。クリーンヒル宝満のほうはシャフト式です。それからクリーンパーク臨海のほうはストーカ式です。2機種を見に行かれました。

それから、今後のスケジュールなんです。第5回目を今月の28日行う予定でございます。内容は、入札公告書類（案）の審議と、その中で、入札公告書類の中で事業者選定を行いますところの評価基準書の基準書づくりですね。それから、もう一つが要求水準書の中身の審議ということで、これを中心に審議が行われる予定です。

それから、第6回目から、入札公告書類の中で、審議及び決定としておりますが、決定に向けての審議が行われてまいります。先ほど、第5回目で行いました事業者選定の基準書、それから事業者を募集しますときに使います入札説明書、それから要求水準書、リスク管理方針書、契約書、これが第6回からとなっておりますところが、審議の時間をあらわすところでございますが、どこの自治体もここには数回の審議回数をかけている模様です。

それが、審議が終わりまして、この入札公告書類の決定というのが真ん中ほどに書いておりますが、決定されましたならば、いよいよ特定事業の選定の結果を確認いたします。これはVFMの値によりまして、DBOとしてこの事業を行うということで、特定事業を選定してまいります。ここまで終わりましたところで、市議会のほうに債務負担行為の御承認のお願いをすることになります。

御承認いただきましたならば、いよいよ事業者を募集いたします入札公告の書類の公表、それから特定事業の選定の公表を行ってまいりま

す。

その後、事業者に、そうですね、四、五カ月から半年ぐらいの時間を与えまして、そのプレゼンの準備をしていただくんですが、入札公告を打ちました後、民間事業者参加状況報告、審査方法の審議などを行っていただきます。それから、事業者から提案書が出てまいります。その事前聞き取りをまず行います。で、提案書自体が出ましたときに、提案書の審査を行っていただきます。

その前に、一般競争入札ですので、価格要素となります見積書が提示されます。これが価格要素なんですが、提案書のほうが非価格要素というふうに考えております。ですので、提案書が出る前に、まず入札として見積書を徴収することになるかと思えます。

その後、いよいよヒアリング、審査を行いますが、ここで落札者を決定していくわけなんですけども、まず最初に非価格要素の審査を行って、それで点数が出ましたところで、今度は価格点の要素を決めます、この入札書を開札いたします。開札した後、価格点と非価格点を合計しまして、総合点で最優秀提案者の決定をしております。

ここで落札者が決まりますので、その後、仮契約、基本協定の締結というふうに進みまして、最終的には、市議会のほうで本契約として契約締結の御承認をしていただくという運びになるかと思えます。

ここで本日お願いしたいのは、この前の本会議の一般質問で、幸村議員のほうから市長に対して御質問があったんですが、その中で、市長のほうからお願いがありました。中ほどの議会承認で債務負担行為を今後お願いしていくんですけども、その際に、市議会として全会一致で御承認いただければというお願いを市長のほうからしております。

そういったことで、今後の事業者選定委員会

の推移を見ながら事業者を募集してまいりますけども、時期が来ましたならば、市議会のほうといたしましても全会一致をお願いをしたいと考えております。

以上で御報告を終わります。よろしくお願いたします。

○副委員長（堀口 晃君） はい、本件について、何か御質疑、御意見等はございませんでしょうか。

はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） この資料では、4回までもう済んだちゅうことで、5回、そして6回ですね。6回から以降、8回程度予定されてるようですけども、その日付ちゅうか、それが入ってないけど、どういう日程で進まれる予定ですか。前に説明したとおりなんですか、それとも少し変更があったんですかね。

聞くところによると、債務負担行為はもう3月にはしたいとかいうような話も漏れ聞いてくるんですけども、前から言っるとるように、環境アセスが進まないと、そういうことも大体おかしんじゃないかなということですけど、そのあたりを踏まえて、何か日程、——何か変更があったんですか。それからいくと大体、予定の日付が入っていくんじゃないかなと思うんですけども、そのあたりはどうなんでしょうか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、小橋環境センター建設課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。今、増田委員のほうから御指摘がありました、3月に25年度当初予算として債務負担行為の御承認をとお願ひして、——会派別勉強会ではお願いをしたところだったんですが、委員長との事前打ち合わせの中で、この事業者選定の基準書、これを審議する際に、やっぱり他自治体と大きく違うのが、八代市の場合はこの

基準書づくりです。

それは、2方式3機種という複数機種での評価を平等に行いたいということから、この基準書づくりが一番時間かかるし、かけなければいけないという御意見をいただきました。

それから、もう一つの要因が、私どもは25年度の当初予算でお願いしたかったんですけども、委員の先生方が年度末に大学入試センターのテストがございます。それから、一般のその大学の入試の準備もございます。それから、卒業のシーズンでございます。そういったことで、9名の外部委員の日程調整が非常に厳しいであろうということ、3月にこの基準書まで終わって、入札公告を打つまでには至らないのではないかとこの予測を立てられました。そういったことから、事務局との考えで、少し日程的にずれが生じておりました。

それで、第6回からの審議につきましては、慎重かつ、回数は少しかかるけども、その2方式3機種が平等に評価できるような基準書づくりを行いたいということのお願いがありましたので、夏あたりを目標に債務負担行為のお願いをできればなどは考えておりますが、これもこの事業者選定委員会の進捗状況を見ながら御判断させていただきたいなと考えております。

まだ特に確定はしとりませんが、できることから進めたいという考えには、これまでどおり変わっておりません。しかし、そういったいろんな状況がございますので、慎重審議を重ねていただきたいというふうに委員長にはお願いしたところでございます。

○環境部長（福田 晃君） はい、いいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田 晃君） ただいま小橋が説明申し上げました中で、委員長という言葉が出ましたけども、これは事業者選定委員会の委員

長でございます。

○委員（橋本幸一君） よろしいですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 関連ですが、この委員会のスケジュールというのは、結局、議会の債務負担行為も含めて、今回の環境センターというのは、私が結局いつも言っとるように、やっぱり環境アセスっていうのが最低限の条件だということと言ったとおり、国・県の許認可ができぬことには、これはどうしても前に進めない部分があるということで、スケジュールというのは、やっぱりその辺の、———何でしょうか、流れも考慮してスケジュールを組んでいかなければ、市独自に、ただ勝手にですね、これ、スケジュールを組んでいったら、私、非常に、国・県との兼ね合いといいますか、信頼関係とか、その辺についても今後やっぱり損なわれる。やっぱそういう部分が出てくるから、スケジュール出す部分においては、非常にその辺は慎重審議に出していかなければ、勝手にやっぱり市独自じゃだめじゃないかなて。やっぱその辺も今後は、執行部についてはしっかりその辺のことも踏まえてスケジュール設定していただきたい。そう思います。

○副委員長（堀口 晃君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） ちょっとさっきの、日付ちょっと聞きたかったんだけど、その日付出なかったですけどね。

債務負担行為については何か夏ごろをめぐりというような、今答弁のようでしたけど、夏ちゅうたら7月とかぐらいからもう夏ですからね。7、8、9。ということは、議会するとは9月ぐらいが議会と、9月議会でそういうのをしたいと言われるのか、それとも6月議会をしたいのか。それと途中の7月のところで臨時議会でという、まあそういう方法があるでしょう。大体、夏ちゅうても、どれぐらいをめぐりされとんですか、ある程度の時期としては。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、小橋環境センター建設課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。夏と申し上げましたが、先ほど橋本委員のほうからアセスメントの終了というキーワードがございました。で、夏ごろにちょうど準備書の、——終わりは評価書が終わったときを終わりに言うんですけども、準備書が夏ごろ出ます。フォーシーズン調べましたデータがそろいまして、準備書の作成に入るんですけど、このときに県知事意見も出るんですけども、特に市民からの御意見やそれから注意などがございませんであれば、この準備書が、今度は評価書で将来予測につながっていくんですけども、現状の場所で、現状の施設の計画はよろしいというふうな状況になってまいります。

その判断がいただければ、夏ごろから今度は評価書に入っていくんですけども、評価書が完了いたしますのが来年の11月ごろですので、その三、四カ月の間に準備書から評価書に移っていくんですけども、そこで特に市民意見、それから反対意見がございませんであれば、加賀島地区のあの場所にこの施設を、環境センターの施設を建てると、建設するということがほぼ確定的になってまいります。

そうしたところで、評価書が出ましたところで、県のほうが港湾計画の変更に取りかかると、手続に取りかかるということを文書でいただいとりますので、そのあたりが事業者を、入札公告を打つ時期としましても市民意見がいただけるのかな……

○委員（増田一喜君） いや、ちょっと。

○副委員長（堀口 晃君） はい。

○委員（増田一喜君） いや、私が今聞いているのは、債務負担行為はいつごろになる、——夏ごろに何とかという話だが、債務負担行為の議

会に議案提出するのは、平成25年の夏ごろというふうに俺聞こえたんですけども、いつごろなんですかって。来年の6月は定例の議会があります。で、臨時議会で7月すんのか、その次は9月の、改選のあった後の9月に出されるのか、そのあたりをちょっと聞きたいなちゅうことで質問したんですけど。

今、何かただら言っって、結局は何月ごろ、何月ごろ、何月ごろて、その数字は入らずに、ただ流れだけ。流れはここに書いてありますからわかりますから、そこにもしわかれば何月ごろというのをね、入れて説明していただきたいなちゅうのを今聞いたんです。

○環境部長（福田 晃君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田 晃君） はい。小橋が夏ごろと申し上げましたのはですね、一番早い時期でも、——私どもの事務局の要望といたしましてですね、今言いました準備書の段階で知事意見がなければ、もし県のほうとですね、うまくお話が進めば、そのときでもということ、あくまで一番早い段階でのこちらの希望です。

ですから、環境アセスが一応基準ちゅうことは、私どものほうも当然考えております。ですから、少しでも早くそれができればということで、小橋のほうで夏ごろと申し上げました。

ですから、最も早くなつたときでも、知事意見のときの夏ごろが一番早いのかなという形になりますけども、現実的にはその知事意見が出てみないことにはわかりません。ですから、ちょっと——。（委員増田一喜君「数字が言えない」と呼ぶ）はい、そうでございます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、増田委員。

○委員（増田一喜君） いや、結局はね、私たちもアセスが終わってからと、環境アセスが終わってからと言うんですけど、25年の夏、夏、夏つって、県とか国とかがそやんと言わな

いんだから、環境アセスが終わらないとそこに進めないよというのであれば、返事もらえるわけがないわけでしょう。

だったらもういっそのこと、すばっときれいにその数字が入れるような形のね、日程をつくったらいかがですか。いつまでもこうやって、こうなったら、あんなたらて、何か日程もころころころころ変えていくようなじゃなくって、ちゃんと国・県と打ち合わせして、これだったらいけるよ、これだったらいけるよとかいう話、そしたら一番肝心なところは環境アセスでしょう。それが済まないことには、私たちは対応しませんよみたいな雰囲気になっただから、やっぱりそこを中心に県・国と交渉されて、そしてその中で日程していけばいいんじゃないですか。

さっきも橋本委員が言われたように、何かもう、ただただ八代の執行部のほうの都合ばかりで日程をして、これに合わせてくださって言ったって、向こうが合わすわけがないでしょう。上級官庁が下級官庁に合わすわけがないじゃないですか。そこらあたりもきちんと丁寧にですね、向こうあたりにも説明してやっていかないことには。

○委員（橋本幸一君） 委員長、よろしいですか、今の関連で。

○副委員長（堀口 晃君） はい、橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 私が今理解しとつところは、今部長のお話では、環境アセスが11月と。その前に、まあ3カ月ぐらい前に、知事の意見書がどういうあれが出るか、その辺の含みがあるから、その辺をめどにして債務負担行為の検討に入りたいという、そう理解してよろしいんですね。（環境部長福田晃君「はい」と呼ぶ）

今の意見と増田委員の意見、ある程度合致していると私は思います。だから、その辺をめどに県と十分検討されればですね、私はいいかと思

います。

○委員（大倉裕一君） よかですか。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 済みません、お昼が過ぎましたが。これから事業者選定委員会が具体的選定のほうに入られる、基準書づくりとかです、そういったものに入っていかれるんだろうというふうに思いますが、8回程度、この8回というのは、他市の例を参考にまあ8回程度で可能ではないかなというふうなことではなかったかというふうに記憶をしております。ほんとにこの8回程度で選定委員会が終わるのかなという懸念もあります。

というのが、結局、八代市は2機種3方式というのをもう貫いてこられて、絞ることをされませんでした。このこと考えると、他市は1機種に絞って、1機種で8回程度の選定委員会です。八代の場合は3機種ありますので、3施設分を検討するような状況にあると言っても過言じゃなかつたかなというふうに私は思っております。ほんとにこの8回というのが、程度ということで濁してありますけれども、選定委員会が十分な選定の期間というのがとれるのかなというふうに、今心配をしておるところですが、そのあたりはどういうふうな見解をお持ちですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○副委員長（堀口 晃君） はい、小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。確かにこれは、進捗状況はもう委員会に委ねておりますので、8回で足りるのか足りないのかという御質問に対しては、なかなか明確にはお答えできませんが、まあ一番審議で中心になりますのが、第6回からの事業者選定の基準書、それから要求水準書、それからお互いが損をしないように取り交わしますリスク管理方針書、このあたりが一番話の中心になってよう

かと思えます。

この条件に合いませんと、今度は事業者が手を挙げてまいりませんので、この入札公告書類の作成、市の審議につきましては、非常に時間をかけざるを得ぬし、かかるであろうと考えております。

ですので、財政課のほうとも、まあ報償費関係はございますけども、この8回で終わらない場合の話もしております。ですので、余りだらだらと長くなるのはよくないんですけども、回数にはこだわらないというふうには、もう初回の会議のときに、委員会のほうには市の方針は伝えております。

ですので、8回が足らなければ9回、10回というふうになるのかと思えますが、この議会承認で債務負担行為を御承認いただいた後の入札公告を打ちましてからは、今度は三、四回の会議で済むのかなと思っております。

要は、この事業者選定基準書を事業者が見まして、その平等性、それから手を挙げる価値があるのかどうか、そういった判断をされると思います。それを見て、事業者が公募、——集まってまいりますので、とにかくこの基準書づくりが一番の課題かなというふうには考えております。ですから、この第5回、第6回あたりから、いよいよ本格的な審議に入っていくのかなと思っております。ですので、ここに数回の会議の回数をかけられると考えております。

以上です。

○副委員長（堀口 晃君） はい、大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 恐らく市が想定しておらぬような状況がまた出てくつとじゃないかなというふうには私は心配をしておりますが、回数にこだわらせないという初回の言葉をつけたというような話ですけど、やはり一つの基準ていうか、区切りは行政のほうとして持っとなだかないと、これがやはり市の主体性という部分がですよ、見えぬから、なかなかこ

う、私たちがこういう委員会の中で厳しく話をしなければならぬ部分がやっぱり出てきてるといふふうに思いますので。そのあたりはですね、しっかり計画性持っていて、検討も掘り下げた検討をしてもよろうてですね、市民に迷惑のかからぬように取り組んでいただきたいというふうにはお願いしておきたいと思えます。

○副委員長（堀口 晃君） はい、ほかありませんか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。なければ、以上で八代市環境センター建設事業の進捗状況について終了いたします。（「ありがとうございました」「お世話になりました」と呼ぶ者あり）

当委員会の所管事務調査について、ほか何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） ほかにないようでしたら、私のほうから本委員会の管外行政視察について、委員さんの方々の御意見をお伺いしたいと思いますので、それではしばらく小会したいと思います。

（午後0時05分 小会）

（午後0時12分 本会）

○副委員長（堀口 晃君） それでは、本会に戻します。

本委員会の管外行政視察を行うこととし、その期間は平成25年2月7日から8日までの2日間といたしたいが、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（堀口 晃君） はい。異議なしと認め、そのように決しました。

以上で所管事務調査2件についての調査を終了します。

○副委員長（堀口 晃君） 次に、本委員会の

派遣承認要求の件についてお諮りいたします。

本委員会は、平成25年2月の7日から8日までの2日間、都市計画・建設工事に関する諸問題の調査、生活環境に関する諸問題の調査のため、行政視察に参ることとし、視察先及び視察内容については委員長に御一任いただき、決まり次第、議長宛て派遣承認要求の手続をとらせていただきたいと思います。これに異議はありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(堀口 晃君) はい。異議なしと認め、そのように決しました。

○副委員長(堀口 晃君) 次に、閉会中の継続審査及び調査の件についてお諮りいたします。

所管事務調査2件及び陳情1件については、なお審査及び調査を要すると思いますので、引き続き閉会中の継続審査及び調査を申し出たいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(堀口 晃君) 異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって建設環境委員会を散会いたします。

(午後0時13分 閉会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成24年12月12日

建設環境委員会

副委員長